

第2回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

平成 27 年 10 月 21 日（水）

時間 午後 2 時 30 分から

場所 弥富市 図書館視聴覚室

（弥富市役所隣 2 階）

○議 事

1. 開会

事務局 （橋村）	・ただ今から、平成27年度 第2回弥富市地域公共交通活性化協議会を開催する。 ・私は議会の橋村である。
-------------	--

2. 弥富市長挨拶

事務局 （橋村）	・最初に、服部弥富市長よりご挨拶をいただく。
服部市長	・大変お忙しい中、また昼からという時間帯に協議会にご出席いただき感謝する。平素は私ども弥富市の行政に対して、大変なご協力とお力添えをいただいていることをお礼申し上げる。 ・平成27年度 第2回の弥富市地域公共交通活性化協議会の中で、皆様にはご出席をいただきお礼を申し上げます。ご承知ながら、通称きんちゃんバスについては、平成22年度から実証運行を開始して、この間いろいろと皆様方からご意見をいただきながら、様々な改善等を加えてきた。今後もより良い運行に対して、目指していかなければならないと思っている。本年度もバス運行の効率化、あるいは利用者の拡大という大きな課題がある。また、ご意見もいただきたいと思っているので、よろしくお願いする。 ・今日の議題については、お手元にもあるように地域公共交通の現状分析等について、もう一つは、弥富市地域公共交通網形成計画について皆さんからご意見等いただきたいと思っているので、慎重なご意見、ご審議を賜りたい。
事務局 （橋村）	・本日、ご出席の皆様のご紹介を兼ねて、配席表を各テーブルに置かせていただいたので、ご確認をお願いする。大変申し訳ないが、名前に一部誤りがあるので、この場で修正をさせていただく。 愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事 【代理】 楠 幸憲に修正 本日は代理で伊藤様にご出席いただいている。 ・人事異動等で一部、委員さんの交代を紹介させていただく。 愛知運輸支局 白木様 蟹江警察署 交通課長 久保田様 三重交通(株)桑名営業所長 笠井様 ・事務局より、資料の確認をお願いする。

事務局 (久野)	○資料の確認 会議次第 資料1：弥富市地域公共交通網形成計画（素案） 配席表
-------------	---

3. 議題

(1) 地域公共交通の現状分析等について

山崎議長	・協議会の議事進行、座長を務めさせていただく、公益財団法人豊田都市交通研究所の山崎である。 ・議題に入る。 ・本日の議題は2つある。1つ目は「地域公共交通の現状分析等について」。今年度も事務局でいろいろ調査をした結果を報告していただくのが1つ目。2つ目が「地域公共交通網形成計画」の素案を報告していただくことになっている。 ・まず、「地域公共交通の現状分析等について」、事務局より資料の説明をお願いします。
事務局 (久野)	○資料説明 ・資料1「弥富市地域公共交通網形成計画（素案）」に基づき説明させていただく。 ・表紙をめくっていただくと目次がある。 ・「1. 地域公共交通の現状分析」から「2. 上位・関連計画」「3. 問題点・課題の整理」まで75ページのボリュームがある。 ・昨年度の最後の協議会でお示しさせていただいたものから、最新の情報に時点修正している。 ・本日は時間も限られているので、今年度に改めて実施した調査結果を中心に説明させて頂く。 【利用者実態調査】 ・まず、現在のきんちゃんバスの利用状況について、利用実態調査結果をご報告する。 ・15ページをご覧いただきたい。 ・上段に一日平均乗車人員を、下段に一便あたり平均乗車人員を整理している。 ・平成26年度と平成27年度の状況を比較すると、一日平均および一便あたり平均乗車人員ともに、全体としては増加しているものの、南部ルートで減少している。 【利用者乗降調査（OD調査）】 ・次に22ページをご覧いただきたい。利用者乗降調査（OD調査）の結果をご報告する。 ・OD調査は、7月7日（火）から7月13日（月）の1週間に全てのバス車内で実施し、23ページにあるように、乗車された方のうち96.6%の方の状況を把握している。 ・24ページの利用者属性について、75歳以上が半数以上となっており、65

	歳以上の高齢者は約7割と非常に多くなっている。 ・次のページの利用目的について、全体では「公共施設利用」が最も多くなっている。 ・次のページの乗り換えの状況は、各ルート間で少数の乗り継ぎがあり、木曽岬町自主運行バスとの乗り継ぎも見られるが、飛島公共交通バスとの乗り継ぎはなかった。 ・27ページには、乗降する停留所のパターンとして、20件以上を赤色、15件以上を紺色で示しており、最も移動件数が多いのは「杉本クリニック」から「近鉄弥富駅南口」への移動で、「近鉄弥富駅南口」や「弥富市役所」、「総合福祉センター」「イオンタウン」を中心とした移動が多くなっている。 ・28ページには、バス停別乗降者数を示しており、「近鉄弥富駅南口」が最も多く、以下「弥富市役所」「イオンタウン」「総合福祉センター」「海南病院」の順で多くなっている。 【無料お試し乗車券】 ・続いて、少し飛ぶが35ページをご覧ください。 ・平成23年度以降毎年度実施している無料お試し乗車券の配布結果を整理している。 ・36ページから配布結果となっている。 ・今年度も昨年度と同様に全世帯及び小学生に配布し、利用期間の8月1ヶ月間で1,012枚が利用されている。ここで訂正をお願いする。36ページの2) 南部ルートの最後（誤）29人減→（正）29人増である。 ・配布期間中のきんちゃんバスの利用状況を見ると、全ルート計では、昨年度と比較して利用者数が多くなっており、ルート別では北部ルート、南部ルートで増加しているのに対し、東部ルートで減少している。 ・39ページには無料お試し乗車券配布以前のきんちゃんバス利用の有無について整理しており、無料お試し乗車券を通じた新規利用者は、85名となっている。 【モニタリング調査 利用者アンケート】 ・続いて、少し飛んで、47ページをご覧ください。 ・モニタリング調査として実施した利用者アンケート調査の結果について整理している。 ・49ページに回答者の属性について整理しているが、右上の年齢層では、「75歳以上」が72.9%と最も多く、「65歳以上」を合わせると約9割が高齢者となっている。 ・次に52ページをご覧ください。満足度としては、「非常に満足」と「やや満足」を合わせた「満足」が32.8%となっている。 ・ただ無回答も多いことからページの下部に無回答を除いた場合の傾向も整理している。 ・また、不満な理由としては、「本数が少ない」「日曜・祝日に運行していない」などが多くなっている。
--	--

	・次に、55ページの今後のきんちゃんバスの運行維持、運行費用と利便性のバランスについては「今のままでよい」が60%と最も多く、「便利にするためには、費用がかかってもかまわない」も比較的多くなっており、昨年度と比較すると「便利にするためには、費用がかかってもかまわない」や「今のままでよい」が増加し、その他は減少している。 【住民アンケート】 ・続いて住民アンケートの結果について、56ページをご覧ください。 ・モニタリング調査として実施した住民アンケート調査の結果について整理している。 ・58ページに回答者の属性について整理しているが、各年齢層、小学校区から回答を得ている。 ・次に59ページのきんちゃんバスの利用状況だが、各ルートともに「利用したことがない」が約8割と最も多くなっている。 ・また、東部ルートと比較し、北部ルート及び南部ルートにおいては「以前は利用していたが現在は利用していない」が多くなっている。 ・次に、60ページの未利用者の今後の利用意向は、「今はまだ利用しない（将来的に利用したい）」が59.8%と最も多くなっており、改善してほしい点としては、「運行間隔の短縮」や「バス停の増設」が多くなっている。 ・次に、以前は利用していたが現在は利用しなくなった方の理由・意向は、「自分で運転するクルマを利用するようになったから」が最も多くなっている。 【市役所一時移転】 ・続いて、また少し飛んで、73ページをご覧ください。 ・現在、市役所本庁舎の改築が計画されており、改築工事中は本庁舎機能の図書館棟（本庁舎隣）や十四山支所への一時機能移転が計画されている。あくまでも現時点での計画であるが、一時機能移転は平成28年5月から予定されている。 【問題点・課題整理】 ・次に、74、75ページにこれまでの概要を整理し、課題として大きく5点あげている。 ・1点目は「将来を見据えた、公共交通による生活交通サービスの維持」として、公共交通の必要に関する共通認識、車両のバリアフリー化、環境対応車両の導入、がポイントになると考えている。 ・2点目は「ニーズに即した運行改善」として、地域特性や利用特性に応じた運行改善、車両サイズの見直し、乗り継ぎの改善、市役所本庁舎機能移転期間の運行方法検討、がポイントになると考えている。 ・3点目は「適切で継続的な情報提供による利用促進」として、分かりやすい情報提供や、継続的な利用促進策の展開と周知、がポイントになると考えている。 ・4点目は「地域で守り育てる体制の展開検討」として、サポート体制の継続的展開、地域協働の取組み促進、がポイントになると考えている。
--	--

	最後の5点目は、「次のステップに向けた新たな目標と計画」として、新たな地域公共に関する計画の策定、がポイントになると考えている。 以上、長くなったが、これで議題（１）地域公共交通の現状分析等の説明を終わる。
山崎議長	今いただいた利用実態や調査結果、こちらの報告に関して、何かご意見、ご質問等はあるか。
瀬古委員 (交通対策課)	- 愛知県交通対策課の瀬古である。本来だと、今日は主幹の小久保が来るはずだが、所用で来られないので私が代理で来た。よろしくお願いします。私は、今年度から交通対策課に異動になったので、いろいろ教えていただくことも考えてきて、ここで質問という形でやらせていただきたい。 47 ページのモニタリング調査の結果についてのところだが、配布数 421 に対して回収が 70 ということで、回収率が低いと思うが、そのあたりはどうだったのか。 50 ページを見ると、昨年度の結果に n=251 とか 252 という数字が入っているの、昨年度とやり方が変わっているのかどうかというところも併せてお伺いしたい。 53 ページに書いてある、サイクル&バスライド駐輪場利用状況のところだが、市内で 6 ヶ所設けていただいているということはわかったが、どれぐらい利用されているのかというのが、もし数字があれば教えていただきたい。
山崎議長	事務局、回答をお願いします。
事務局 (橋村)	47 ページのモニタリング調査であるが、昨年と同じようにバスの中で配布させていただいて回収するという方法を取らせていただいている。回収数が少ないというようなことについては、やはり同じ方が何回か乗られるというようなこともあり、昨年と比べると数値的にはどうしても低くなったという状況ではないかと思う。 - このモニタリング調査、昨年は時期を変えてもう一回やっているということで、数値的には増えている、というか逆に、今年減っているという状況である。 - サイクル&バスライドのどれだけ自転車に乗ってこられるかというのは、申し訳ない、把握していない状況である。
山崎議長	アンケートの配布の仕方自体は同じか？回数が多かった？昨年は票をたくさん取るために 2 回に分けてやったのか？
事務局 (橋村)	方法是一緒である。回数だけ増やさせていただいた。
山崎議長	- 若干、回収率が低いのかなというところはあるので、今後考えていく必要があるかもしれない。 - 他にいかがか。
佐野委員 (公募委員)	サイクル&バスライドの関係で、弥富市の場合はどういう形でやってみえるのか。東京だと、無料自転車を適当に置いて、どこでも返せるというのもあるし、自分の自転車に来て乗り換えていく方法もあるかと思う

	が、具体的にどういう形でやってみえるか教えていただきたい。
山崎議長	・事務局、お願いする。
事務局 (橋村)	・サイクル&バスライドの駐輪場については、公共施設の駐輪スペースを活用していただいております、今おっしゃられる自転車の貸し出しとか、その辺までは手掛けていないという状況で、自分の自転車をバス停まで乗ってきていただいて、そこでバスに乗り換えていただくという方向である。
山崎議長	・他にいかがか。
牧野委員 (海部建設事務所)	・バスのコースというものは、高齢者の方の分布に従ったコースで設定されているかというのを伺いたいのと、利用者と想定される方々がどこへ行きたいかというニーズも併せた上で、現在のコースを作成されたものかというのを確認しておきたい。
山崎議長	・事務局、お願いする。
事務局 (橋村)	・まず第一点目、バスの経路については、弥富市においては、きんちゃんバスを走らせる前に福祉バスというのを運行していた。その関係で、基本的には福祉バスのルートを引き継ぐというような状況の経路設定をしている。各地区にできる限りバス停を置くということと、各地区をできるだけまわるようにというような福祉的な政策が色濃く残って、それを引き継いで地域公共交通のバスの運行もさせていただいている。 ・バス停の箇所については、先ほど申したように各地区をまわるということのバス停と、もう一つは、各拠点をまわらせていただく。市役所、海南病院、鉄道駅、それと商業施設、福祉センター等の公共福祉の場所を拠点として巡回をさせていただく。そのようなことで、住民の方のニーズも取り入れてバス停の設定をさせていただいている。
山崎議長	・他にいかがか。 ・利用者を見てみると、平成 22 年から増えてきて、実はサービスレベルを落としながらも利用者全体としては増えてきているというところは、評価に値するところかなとも思っている。 ・もうこれで利用者も頭打ちというか、数が伸び悩んでいるかなという印象がある。 ・無料お試し乗車券を毎年継続してやっているが、これも今回新たに利用された方が 85 名であった。こういった方が今後も、何かきっかけがあると利用してくださるようになるといいなと思う。
牧野委員 (海部建設事務所)	・前回、こちらの公共交通はフィーダーだと説明を受けた記憶がある。フィーダーとなると、基幹となるバス路線はどこなんだという質問の中に飛島だとお答えいただいた気がする。26 ページの乗り継ぎを見ると、飛島公共交通の乗り継ぎは 0 だということで、これがちょっとどうなのかなと思った。 ・飛島の公共交通会議に出席させていただいたが、飛島はこちらの海南病院に対するルートを持っているような説明、もしくはタクシーも海南病院の方を意識しているというのがわかった。今、弥富市だけの中でネッ

	トワークを組まれているけど、そのあたりがフィーダーとの兼ね合いで課題があるのかなという感想を持った。
山崎議長	・事務局、いかがか。
事務局 (橋村)	・今の飛島バスの関係だが、弥富市の地域公共交通については、フィーダー系で運行させていただいている。基になるのが、飛島公共交通である。十四山の2か所に乗り継ぎ点を設けさせていただいている。今回、指摘のあった乗り継ぎがないではないかということで、表にはないが、54ページの「8) 東部ルートの飛島公共交通バス蟹江線との乗り継ぎ」ということで、数字的には乗り継ぎをしたことがあるという方もおみえになる。この期間中に乗り継ぎの実績がなかったということで、ご理解をお願いしたいと思う。やはり、私共がフィーダー系になっている以上、ご指摘の通り課題があるのかなと思う。 ・飛島村について、海南病院への運行については、バスを走らせるのではなく、どちらかというとデマンド方式で予約を受けてから、バス停から直通で海南病院へ向かうという施策を取っておられる。今後は、飛島の役場の方へ弥富市が乗り入れさせていただいて、南部ルートも海南病院ルートもあるので、そういう利用をしていただくとか、その辺も今後の課題になるかと考えている。
佐野委員 (公募委員)	・別の観点でお聞きしたいが、木曾岬さんと飛島さんは、蟹江駅なり弥富駅への運行の目標がはっきりしている。弥富の場合はぐるっとまわって地域の人をひろっていく。私もこの前乗った時に、川平公民館で乗った学生がどこで降りるかなと思ったら、弥富駅南口で降りた。小一時間乗っていた。例えば、地域の横の連携がないから、駅と地区とか、役場と地区の系統を見直した方が、より利用が増えるかなと思った。 ・先ほどお話があった、場所によっては路線バスを運行するよりも飛島さんがやっているフィーダー交通も併せてやった方がいいのかなと思う。収支率を見ると非常に低い。関東の話ばかりで申し訳ないが、デマンド交通で30ぐらいの収支率のところも結構ある。将来的な話かもしれないが、デマンド交通について検討するといいのかなと思う。 ・この前、テレビでやっていたような愛知県は金魚が有名で卸売市場を見に行きたいという人もいるそうで、観光資源を含めたバス路線というのでも検討するといいのかなと感じた。
山崎議長	・事務局、今のご意見に関していかがか。
服部市長	・大変貴重なご意見をいただいた。最初にお話をさせていただいたように、実証運行をして4年近く経っている。今、ルートとしては3ルートあるが、十四山地区の東部ルートに関して、実は私がその他の項目のところでご提案申し上げて、皆さんにご協議いただこうと思っていたことが、委員の方からお話いただいた。 ・十四山地区に東部ルートでは20ヶ所ぐらいのバス停がある。そして、病院や駅、商業施設、福祉施設を巡回している。これを思いきって約半分ぐらいの停留所にして、逆にそこまで来ていただく。オンデマンドと

	いうか、ダイレクトに病院や駅への本数にしていった方がより利用価値があるのではないかと考えている。デマンド方式についても過去の協議会の中で委員の皆さんにも協議いただいていたが、それが経費もかさむことがあったり、本来の公共交通の形から少し意味合いが外れていくのではないかとということも含めて、協議はさせていただいたが具体性になってきていない。 ・海南病院の整備計画が来年の9月、10月をもってすべて終了していくという第3次の整備計画が進んでいる。そういったことに合わせてということもあるが、十四山ルートをオンデマンド方式、いわゆるバス停を圧縮してスピード感を持ってこのバスを利用していただくという方式というの、来年度しっかりと検討しなければいけない。9月ないし10月、海南病院のオープン等にも合わせて、海南病院の中にバスが入れるようになるので、そういったことも含めて一度皆さんにご協議いただきたいと、今日ご提案申し上げていきたかったと思っている。ぜひ、一緒になって考えていきたい。そして、市民の足あるいはスピード感のある公共バスにしていけたらいいなと思っている。デマンド方式を運行の中に取り入れることが可能かどうかということを協議していきたいと思っている。
山崎議長	・ただいまの市長からの話に関して、ご意見等はあるか。
福田委員 (民生委員)	・利用客が少ないというところで、52ページの満足度を見るとよく分かると思うが、私最初から出席させていただいているが「本数が少ない」というのは地域の住民の方のご意見である。どこの乗り降りが多いかというのは、調査でどこからどこまで行くのが、一番乗降客が多いかというのは分かっていると思う。乗っても乗らなくても時間内にぐるぐる回っているのでは帰るに帰れない、届くに届かないという意見が多い。乗降客が多いところでは、2時間に1本ではなく1時間に1本走らすとか、臨時的に走らせたなら、たぶん病院やショッピングの方が利用されると思う。2時間、3時間待ってまでそれに乗らなくてもいいわ、タクシー券を利用していこうとか、そういう方は結構いらっしゃるようなので、利用客の多いところは時間を細かく、特定でなくてもその地域だけでも走らせていただいたら、お年寄りの方も買い物に行くのに便利になるのではないかと考えている。
山崎議長	・事務局、いかがか。
事務局 (橋村)	・52ページの満足度のところで、不満な理由で「本数が少ない」というのが一番トップになっている。これは、本当に頭が痛い状況である。各停留所の乗降人数については、16、17、18ページに各ルート別で載せている。28ページについては、全停留所の乗降者数を載せている。 ・先ほども市長が申したように、オンデマンドというか拠点運行も含めて、今後検討の一つとして考えていきたいと思うので、皆さまのご協力をお願いする。
山崎議長	・もう一度しっかり見直してみようということである。

事務局 (橋村)	・ 来年の海南病院の関係で、ルートのにもバス停を少し動かすというのもあるので、それを合わせて検討ができたとは思っている。
山崎議長	・ よろしいか。
伊藤委員 (女性の会)	・ 市長さんのお話にもあったように、私一度経験したけれども、北部のバスを乗って東部の十四山へ行こうと思うと、佐古木で乗り換えないといけない。ちょっと乗って、また向こうへ渡ろうと思うと、また次のバスを待たないといけない。だったら、北部ルート、東部ルート同じぐると回れるような形をとってもらえないかなと思う。ルートが結局 1 号線で分かれた形になっている。皆さんからいろいろと聞いてきたが、1 号線に停めるのは交通の関係で無理だということだが、停まる所をみると病院関係にだいぶある。佐古木にある服部外科病院には足・腰の悪い方で佐古木駅から歩いてきても 10～15 分はかかるので、その近くで停留所をつくっていただけないだろうか。バスが早く来るといけないからと思って早く行くと、夏には日射病になる可能性が強い。ここの病院のところに停留所をつくっていただけないかという要望がたくさんある。 ・ 乗り継ぎの件だが、私の場合だと五明から乗って福祉センターまで行く。南部へ行く場合には南部ルートに乗り換えるが、その時に乗り換えに印鑑か券だかもらえれば 1 回で行けるが、そういうことがよく行き渡っていないくて、皆さんまた買わなくてはいけないのかということがよく聞かれるので、もう少し広報でわかるように載せていただきたいと思います。
山崎議長	・ 事務局、いかがか。
事務局 (橋村)	・ 今の北部ルートから東部ルートへの乗り継ぎをなしにそのまま走らせられないかというご意見もあった。これについて、系統ということで、北部ルート、主に 1 号線から北、旧弥富地区、それと南部地区の南部ルート、それと十四山地区の東部ルートと 3 ルートで運行させていただいている。その関係でどうしても乗り継ぎが出てくる場所へ行くというところについては、乗り継ぎをしていただかないといけないということが生じる。それを逆に、一回りにしてしまうと運行時間がどうしても長くなるというデメリットもある。これは、不自由をかけるが拠点で乗り継ぎをしていただく方法でお願いしたいと思う。引き続き、検討していきたい。 ・ 服部病院の停留所については、いろいろなご意見をいただいている。国道 1 号と県道のとても交通量が多い交差点であり、直近ではなかなか停めづらい。近鉄佐古木駅ともう一つは竜頭公園に停留所を設けさせていただいている。おっしゃる通り病院へ行かれる方は体の不自由な方が多いので、なるべく近くには停めたいとは考えているが、そのような事情で直近では停めれないことをお願いしたい。これについても、警察さんや運輸局さんとも今後ともご相談を申し上げていきたいと思っている。 ・ 乗り継ぎの件については、私どもの PR 不足で、方策を考えていきたいと思うので、よろしくお願いします。
山崎議長	・ 今のよう to 個別の話になってくると、いろんな話がいろんな所から出てくる。そういったことをきちんと、これからの検討の中で整理していっ

	て、運行経費は限られているし、なるべく少なくした方がいい。そうするとバスの台数も限られて、運転者さんに働いてもらう時間も限られて、その中でなんとか最適なサービスをしていかないといけないということで、かなり難しいところはあると思う。いろいろいただく細かい意見も参考にしていきたいと思う。
福田委員 (民生委員)	・ 乗り継ぎの件で思ったのだが、外国でもどこでも 1 日乗車券を発行している。病院へ行ったり、また家へ帰って買い物に行ったりと、無料の方はいいけど、そうではない人は 1 日乗車券を発行したらもう少し利用が増えるかなと感じているが、ややこしい乗り継ぎ券を買わなくても、判を押してもらわなくてもそれだったら安心で乗れると思う。
山崎議長	・ 一日乗車券は今まで検討したことなかったか？
事務局 (橋村)	・ 十分、検討したいと思う。ただ、弥富のバスご利用の方、先ほども年齢別とか見ていただくと大人数の方が多いということである。75 歳以上の方は一応無料とさせていただいている。75 歳に到達された方はもうじき発送させていただく予定をしているが、健康保険証等年齢が分かれば、それを提示していただければ無料で乗っていただくことができる。
山崎議長	・ いろんな意見が出てきたが、大きな流れとしては、根本的に見直した方がいいような部分もある。資料の 75 ページ、課題の整理というところまで説明させていただいたが、一番右側の課題のところまで 2 つ目の枠の中に、「ニーズに即した運行改善」ということで、地域（ルート）により、利用目的が異なるなど、それぞれの特性を加味したさらなる効率的な改善が必要とここに集約されている。この課題の中にいろんな施策をやらせていただくことになる。新たな計画づくりの検討に入っていただきたいと思う。

3. 議題

(2) 弥富市地域公共交通網形成計画（素案）

山崎議長	・ 議題（2）弥富市地域公共交通網形成計画（素案）について、事務局から説明をお願いします。
事務局 (久野)	・ 「弥富市地域公共交通網形成計画（素案）」の内容について説明する。 ・ 76 ページをご覧いただきたい。 ・ 4-1 計画期間は、地域公共交通と連携し現状のまちづくりを持続させることが必要であることから、上位計画である「弥富市総合計画」や「弥富市都市計画マスタープラン」の目標年次（平成 30 年度）を踏まえ、平成 28 年度からの 3 年間（平成 30 年度）とする。なお、本計画は、各上位計画の見直しや社会情勢の変化等に合わせて、適宜必要な見直しを行う。 ・ 4-2 計画区域は、弥富市全域とする。 ・ 4-3 基本方針は、昨年度の協議会でお示しした内容と同様に、「市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持」をテーマとして、高齢者や地球温暖化など、将来にわたる暮らしの安心の確保を目標としている。

	・具体的には、使いやすく効率的で、持続可能な地域公共交通への発展のためにまちづくり等の関連計画と連携するとともに、地域特性や利用者特性に応じた継続的な改善を行うほか、継続的な情報提供、市民・行政・交通事業者等の協働・連携を掲げている。 ・4-4 地域公共交通の連携の考え方は、基本方針の実現に向けて、広域的な移動手段としての鉄道、使いやすい市内の移動手段としてのきんちゃんバス、それぞれの乗り継ぎ環境改善による利用促進や利便性の向上を図るとともに、1人で移動できず、きんちゃんバスも利用できない方の移動手段としてのタクシーに対し、料金助成事業等と連携し、利便性の向上を図る。 ・特にきんちゃんバスについては、市内の主要な拠点を結ぶ使いやすい移動手段として、地域特性や利用状況、まちづくり等の関連計画を踏まえてつつ効率的、効果的に運行する。 ・また、基本方針の実現に向けて、市（行政）、市民、交通事業者の役割を明確にし、協働と連携による取り組みを行う。 ・78 ページに拠点を結ぶ地域公共交通の展開イメージを示している。 ・69 ページに都市計画マスタープランにおける将来都市構造図を示しているが、都市マスの「利便居住ゾーン」を重点的に運行する拠点集積エリアとし、現状でも3ルートすべてが乗り入れしているゾーンになる。また、都市マスの「にぎわい交流拠点」「行政サービス拠点」といった主要な拠点を本計画においても拠点と位置づけ、それらを結ぶような公共交通網を形成するものとしている。 ・4-5 基本方針に基づく目標としては、昨年度の協議会でお示しした内容と同様に、「1 便当たり平均乗車人員の維持・増加」と「利用者満足度の向上」を掲げている。 ・また、新たに目標年における目標を明確に数値で示している。 ・これは、1 便あたりの平均乗車人員については、過去の推移をもとに目標年である平成30年度の値を推計し、今までの乗車人員の伸びを維持、もしくは乗車人員を維持する目標値となっている。 ・4-6 目標を達成するために行う事業及び事業主体・計画期間については、表に整理しており、80、81 ページでは事業を一覧で整理し、82 ページ以降でその事業の内容について整理している。 ※80、81 ページの「施策の方向性」「実施事業」「実施主体」「計画期間」を読み上げ 以上で議題（2）弥富市地域公共交通網形成計画（素案）についての説明を終わる。
山崎議長	・ただいま説明があった計画の素案に関して、ご質問、ご意見等ありましたらお願いします。
瀬古委員 （交通対策課）	・今度はお願ひも含めてであるが、87 ページにある 4-6-4（1）車両更新時

	におけるバリアフリーや環境に対応した車両の導入に関連して、愛知県にコミュニティバスについて、愛知障害フォーラムという障害者の団体の方から要望があり、弥富市に限ってではなく県に対して全体のことで要望されたことである。コミュニティバスについて、更新時にはノンステップバスに切り替えるようお願いしたいというのが一つ目である。 2 つ目については、どんな障害者が乗車しても丁寧な接遇をするように乗務員教育を徹底してほしいというこの 2 点について要望があった。接遇に関しては、障害当事者が参画した上での乗務員研修を行ってほしいというお話があったことをここで紹介させていただきたいと思う。 ・議題でも出ていた飛島村や木曽岬町さんとの連携だが、愛知県の立場としては、地域を越えた形で連携を取っていただくのは非常にありがたい。今後もそうやっていくべきだと思っているので、その辺りはしっかりやっていただければいいと思う。 ・議題 (1) の中で、飛島村役場の方には弥富市さんの方から乗り入れるという話だったと思うが、85 ページの絵を見ると、それ以外に南部ルートの方で飛島公共交通バス名港線の方で乗り入れ検討という形になっているが、こちらは両側に線があるが、まだどちらがということは決まっていないのかなと感じるが、もし考え方があれば教えていただきたい。 ・委員の方からもあったが、観光の面で取り入れるとか言われていたが、座長さんの方からも利用者が頭打ちになってくるだろうという話もあったので、市内だけではなく市外からの見込みを考えて行く必要がある。
山崎議長	・事務局、いかがか。
事務局 (橋村)	・1 点目の障害者にやさしいバスということで、そのような対応のバス等を検討していきたいと思っている。バス事業者さん、三重交通さんをお願いしているが、今の丁寧な説明等々、接遇関係については、事業の中でいろいろやられているのを反映していただいていると思っているので、単独でやっているわけではないので、その辺もよく相談しながら進めていきたいと思っている。 ・他の地方公共団体のバスとの連携について、今のところ実施しているのは十四山地区での東部地区との乗り継ぎのバス停を設置している。今後の検討の中で、飛島に乗り入れをすとか、飛島村の名港線に乗り入れすとか、こういう検討ができればいいなという段階である。まだ実際にどうするということころまでは至ってないので、今後の検討とさせていただきます。 ・観光面での PR であるが、私ども初めてお聞きしたということもあるので、その辺も考慮しながら検討していきたいと思う。金魚はあるが、大きな観光施設等がないので、それもネックかなというところであるが、それも併せて検討をしていきたい。
山崎議長	・飛島との乗り継ぎは、位置付けとしては飛島公共交通バスが都幹線で、きんちゃんバスがフィーダーである。きんちゃんバスの利用者にアンケ

	ートをとるだけでなく、飛島の幹線の方を利用される方々に弥富に来る用事があるのか、きんちゃんバスに乗り換えてもらってイオンタウンとか来ませんか？というような、行きやすいような施策を考えていかないといけないと思う。 ・日曜日は走っていない。休日は土曜日だけである。その辺りも、もともと福祉目的というところからきているところがあって、なかなか今まで観光というのは意識してなかった。そういうこともあって、日曜日の運行はやめたという経緯がある。対象をどこに持っていくかというところからきちんとしておかなければいけない。観光を対象にするのであれば、常に走らせる必要はないかもしれないが、スポットでも日曜日も走らせることも考えなければいけないのかなというところである。どうするかという方針出しのところからきちんとしてやらなければいけない。
白木委員 (愛知運輸支局)	・議題(1)のところで、市長さんから東部ルートの系統の見直しというお話があり、来年の秋ぐらいだったと思うが、形成計画の中でそういう話があるのであれば、そういう内容をきちんと書き込まないと形成計画にならないので、形成計画の中身を吟味しないといけないと思う。 ・78 ページに公共交通の展開イメージがあるが、将来的にこうしたいという話なのか？そういう絵と今回の市長さんが言われた系統見直しというのは、関連付けができていいのかどうか。最終的にこのイメージは何年頃にしたいのかということを書き込んでいただかないと、なかなかご理解いただけないのかなと思う。 ・タクシーだが、今回の活性化再生法の改正でタクシーも公共交通となっている。どちらかというと、福祉タクシーや介護タクシーというイメージが非常に濃くて、一般タクシーをどう活用していくかというところもきちんと記載してもらいたい。こちらについては、タクシー協会の方がいらっしゃるなので、書き込みについてはよくご相談していただいた方がいいと思う。 ・82 ページの運行改善について、先ほどの話で系統の見直しがあるのであれば、そのこともきちんと書き込んでおく。あるいは、それを見込んだ絵を描かないと全く意味がない。 ・83 ページの福祉タクシー助成事業とあるが、福祉タクシーだけしかないから、一般のタクシーの活用というのを書き込んでほしい。 ・車両の更新、サイズの見直しがその下を書いてあるし、その後にも環境にやさしいバスの導入ということで2ヶ所に書いてあるけれども、同じような内容なので、これは一本化して書いていただいた方がいいと思う。バスの更新時期というのは、三重交通さんの方でわかっているはずなのでよく相談して、いつだっていうことを書かないと意味がないと思う。 ・サイクル&バスライド駐輪場の設置ということで、6 個所に今あるが、今後増やしていくということだが、増やしていく方針、どういうところを中心に増やしていくかということをも明記していただきたい。

	・88 ページの分かりやすい時刻表の作成、配布ということで、ぜひここに、裏面でも字が小さくなるかもしれないが、JR や近鉄あるいは名鉄の鉄道ダイヤも入れ込んでいただけると、乗り継ぎの方が非常に多くなっていると思うので、非常に便利になると思う。ぜひ検討していただきたい。 ・全般的な話で、特に利用促進であるが、来年度中に検討して 29 年あるいは 30 年から実施という記載がよくあるが、1 年もかけて検討するような内容のものでもないものもたくさんあるので、前倒しで今年度中に検討できるものがあつたら、今年度中に検討を済ませてもらって来年度からできることはしていくという意気込みを見せていただきたいと思います。 ・観光という話が出ていた。今回の法改正でもまちづくりあるいは観光と一体的な計画をするということもあるので、広域的な観光の夢があるのであれば、それも書き込んでいただきたいと思います。
山崎議長	・いろいろ具体的な部分も記述が足りないところがある。それから、大きなところとしては、先ほど市長から言われた東部ルートを開発するなら、それはきちんとここに謳っておくべきである。
事務局 (橋村)	・東部ルートについては申し訳ない。まだここに反映していないので、それも記入する。今、ご指摘のあった項目についても記入させていただいて、後日ご相談を申し上げると思うので、よろしくお願いします。
多田委員 (名古屋タクシー協会)	・先ほど、愛知運輸支局の委員さんからご指摘があったことと関係するが、タクシーの役割というものも必ずあるはずである。タクシーを使ってくれということではないが、タクシーを利用する場面というものがやはりあるのかなと…。特に、市長さんのお話の中にあつた、また民間の住民代表の委員の方にもオンデマンドというような話があつたが、それがバスでできるのか、タクシーでないとできないのかという問題もあるかと思う。 ・私どもタクシーの協議会を設置していて、タクシーの計画をこれから作っていかうと考えている。11/9 にはその協議会を開催して、タクシーの計画の素案をご提案してご審議をいただく予定である。今年の 3/16 だったと思うが、私どもの協議会の会長、名古屋大学の加藤先生の方から文書でもって、名古屋交通圏 17 市町の全自治体さん、さらにはその中で地域の公共交通会議を設置している 15 の交通会議の会長さん宛てに、タクシーをこんなふうに考えてほしいということで、大きく 4 つの項目で、文書でもって要請をさせてもらった。ぜひ、形成計画の中へしっかりと書き込んでいただきたいと思いますと重ねてお願いします。細かいことは本当にたくさんあるので、どんどん協会の方へお問い合わせをいただければと思っている。今後ともタクシーの活用についてよろしくお願いします。 ・この計画の中では、福祉タクシーということで取り上げていただいているが、そこで確認をさせていただければと思う。連携計画、当時から福祉タクシーというものは、計画の中にもしあつたということであるならば、何ら連携計画と交通網形成計画が変わらないのではないかという指摘もできると思うので、交通網形成計画なるものもあり方というものは

	利用者の方にもう一度ご教示いただきながら、よろしくお願ひしたいと思う。 ・タクシーの代表者がこんなことばかり言うと、タクシーのエゴだと思われる方も結構いるのではないかと思うが、タクシー協会大変な状況である。特に地方に行けば行くほど運転者不足という問題が、タクシーをなくしてしまう、そういう結果になっていく傾向が非常に大きい。タクシーは 24 時間いつでもどこでも、ということで皆様方のご要望に応じていくつもりだが、現実にもう、そういうことができない状況が発生している。実際、タクシーに乗ってみたい、使おうと思ったけれどもタクシーがいなかったでは始まらないので、今からタクシーをどうしていくかということ在地元の皆さま方とタクシーとで一緒に考えていきたいと思う。今後ともタクシーのご理解をよろしくお願ひしたい。
山崎議長	・事務局、よろしいか。
事務局 (橋村)	・また、今後ともご指導のほどお願ひしたいと思う。
山崎議長	・私もタクシー協議会の名古屋ではなく、西三河の南部、東部と 2 つあるが、そちらの方で委員をやらせていただいているが、本当に今、タクシーをもっと公共交通として活用していこうという流れがあるので、弥富でもぜひ考えていただきたいと思う。 ・例えば、かつて運輸局さんから Good Practice と持ち上げていただいた例で、私が関わった事例で、三好市でさんさんバスが走っている。フィーダー路線として乗り合いタクシーを設定して、一般のタクシーのイオンで待っているような空き車両を使って、デマンドサービスをやる。家まで迎えに来ると一般のタクシーになってしまうので、地域ごとにバス停ではなくタクシー乗り場があって、そこまでタクシーが来てくれて、何時何分のバスに乗りたいたいと言うと、何分か前にタクシーが迎えに来てくれて、一番近くのバス停までタクシーが運んでくれる。その後は基幹路線のバスに乗る。そのやり方だと、事業者との契約の仕方が大事で、事業者さんがたまたまバスを運行しているタクシー事業者さんで、だからオプション的なサービスとして、かなり安い値段でやってくれる。それは、1 回走ったらいくらという単価を決めてやっている。すごくお金がかからない。走れば走るほどお金はかかるが、利用者がいなければお金がかからないといういい仕組みだと思う。そういうのも検討できればと思う。 ・他によろしいか。
佐野委員 (公募委員)	・感想だが、基本的にはきんちゃんバスというのは福祉バスということで始まったので、現在のルートはそれをずっと引きずっていると思う。先ほど言ったように、今後ルートの見直し等をされると思うが、乗り合いタクシーの活用というのが非常に有益かなと思っている。 ・今後、焦点をどこに当てるかである。実際の利用者が、65 歳以上が 7 割で、それをメインとしていくのか、さらに市民全体の足としてきんちゃ

	んバスを考えていくのか、ターゲットを今までと違った視点にしていくのか、そこを明確にしていくとどのような交通体系か決めれるかということになる。形成計画について、法規制が緩和されたので、幅広く取り組んで、もう少し視点を幅広くしてきんちゃんバスの体系を考えていくと、もっと市民から利用しやすいかと思うので、検討していただきたい。
福田委員 (民生委員)	・タクシー協会の方にお伺いしたいと思うが、福祉タクシーの運転手さんは福祉の資格は持っているのか？
多田委員 (名古屋タクシー協会)	・この地域の福祉タクシーの運行先の事業者さんは、おそらくシバタさんと近鉄さんだと思うが、おそらくこの２社はそのような資格は持っていない。ただ、名古屋市内には、大手のグループのタクシー会社の中には、いわゆる介護士の資格を持っている方、警備員の資格を持っている方が実際にタクシーに乗って、駆けつけ介護みたいなこともやっているが、すべからくそういう乗務員さんを確保しているということではない。特に周辺部においては、やはりそういうものにはコストがかかるので、通常の二種免許を持っているタクシーさんだと思う。そういうタクシーさんにあっても、介護ということに関してはいろんな研修を受けていただいて、先ほどもどなたかから提案があったけれども、福祉の方の専門家から教育を受けていただく。こういうことも重要だと思っているし、全国的な福祉の団体が東京にあるわけだが、ユニバーサル研修を実際にやっており、それを受講した人がドライバーの教育をしていくという制度も現実にある。 ・先ほど、名古屋のタクシーの計画のことを話したが、「そういうことに取り組んで下さい」ということをしっかり書いて、それを広げていく。だからといって、近鉄さんやシバタさんができるかどうかとはイコールではないけれども、先々はそういう方向を広げていかないと、やはりタクシーの利用者にとっては、またお体の悪い方にとっては、車椅子の操作一つでも大きな問題だろうと考えている。そういう方向にいくべきだということを考えている。
福田委員 (民生委員)	・福祉タクシーと書いてあったので、名古屋のある施設を見学させていただいた時に、ご存知だと思うが、全員が介護士とかいろんな資格を取って、タクシーの方が小回りがきくからデイサービスの朝の決まった時間にタクシー会社を送ってくる。運転手さん自体が介護士とかいろんな資格を取っているのだから来る方もとても安心できるという話を聞いて、そうだったら福祉タクシーの方がいいかなと、若い人も年よりも一緒の問題だが、分けられたらそういうタクシーも地域に出たらいいのではないかと私は考えた。健康な人も足腰の悪い人も一緒の土台に乗せてという案もどうかなと思っていた。
山崎議長	・いろいろご意見いただいて、事務局の方も宿題が山積みになっているかと思うが、今日の協議を踏まえて、素案をさらに詰めていっていただきたいと思う。

	・他によりしいか。
笠井委員 (三重交通)	・先ほど県の方が、障害者の方に対する接遇や研修のお話があったが、当社も三重県だが同じように障害者の団体から全く同じようなご要望を頂戴して、この夏から秋にかけて全社で障害の当事者の方を交えて研修をさせていただいた。桑名営業所でも8月から9月にかけて研修をさせていただいた。研修の中で、なかなか接遇面、車椅子の乗車の方法等、不慣れな乗務員が多かったのは事実であるので、接遇にはゴールはないと思っている。今後も取り組んでいきたいと思っているので、窓口の方よろしくお願いします。
山崎議長	・今度11/2に運輸局さんがセミナーをやられるけれども、北海道の十勝交通ご存知か？従業員の方が地域に密着して、頑張ってサービスを提供して生き返った。その部長さんがみえて講演されるので、乗務員の方にも聞きにいていただけるような機会があるといいなと思う。
白木委員 (愛知運輸支局)	・宣伝だが、11/2に名古屋市中区のウィルあいちのホールで開催をする。一般の住民の方も勉強になるので、ぜひご参加いただければと思う。中部運輸局のホームページの方で案内をさせていただいているので、ご不便でしょうが見ていただいて申し込みしていただければと思う。
服部市長	・私からお話をさせていただいたオンデマンドの形について、先日、今日の協議会の打ち合わせを事務局としておった時に、形成計画の案としてそういうことを載せないでだめだよという形の中でお話をさせていただいて、その他の項目のところでそれを取り入れていただきたいという意味合いで申し上げたので、誤解のないようにしていただきたい。 ・3年半経過して、もう一度抜本的にしっかりと時間をかけるものはかけて、地域の市民の皆さま、住民の皆さまの足として、この公共交通について利便性を考えていきたいと思うので、よろしくお願いします。
山崎議長	・他によろしいか。 ・弥富市地域公共交通網形成計画（素案）に関して、ここまでとさせていただく。引き続き、事務局、愛知運輸支局さん、あるいはタクシー協会さんからもご協力いただきながら詰めていただきたいと思う。

3. 議題

(3) その他

山崎議長	・議題（4）その他について、事務局から何かあるか。
事務局 (橋村)	・特にない。
山崎議長	・議題はこれですべてである。 ・事務局から連絡事項はあるか。
事務局 (橋村)	・次回の第3回協議会は、12月頃を予定している。その頃には形成計画等埋め合わせをさせていただきたいと思っている。よろしくお願いします。 ・計画では12月と3月頃に予定をしていきたいと思っているので、ご協力を賜りたい。

4. 閉会

事務局 (橋村)	・ 以上で、第 2 回弥富市地域公共交通活性化協議会を閉会する。 ・ 今後ともご協力をお願いします。
	以上